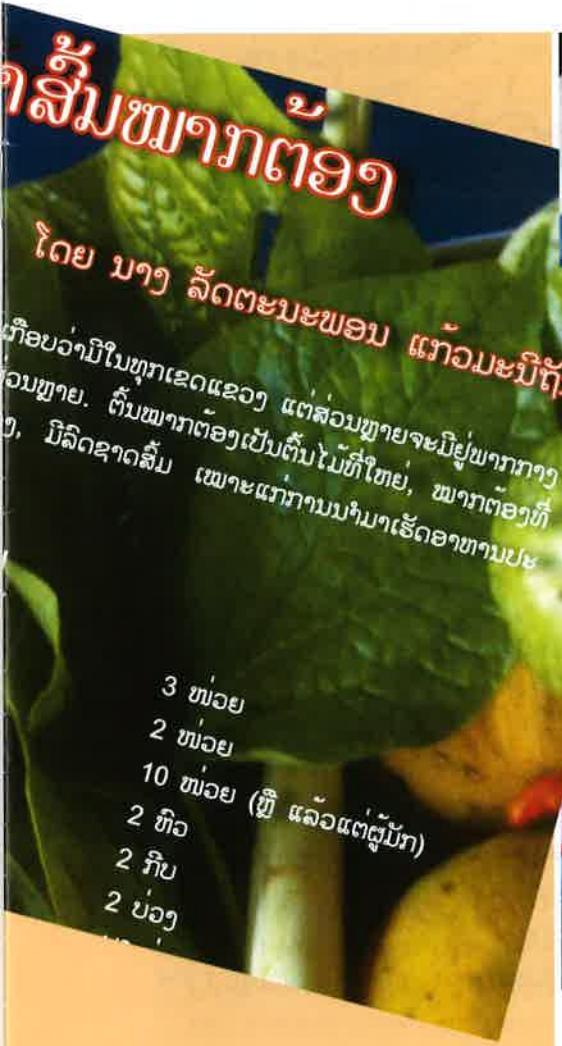


子どもは未来をつかみたい

2015年度年次報告書 ダイジェスト
2016年度年次計画
(認定) 特定非営利活動法人 **ラオスのこども**



目次

2015年度 第14期 事業報告

この1年	p2
ラオスでのプロジェクト	
I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)	p3
II. 本をつくる(出版プロジェクト)	p4
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター)	p5
日本での活動	p6
組織運営	p7
2015年度 第14期 会計報告	p8
2016年度 第15期 事業計画・予算	p9
第7次中期計画	p10



■ 学校図書室の地域への展開事業	16ヵ所
■ 学校図書室(HakArn)整備事業	14校
● 中等学校の図書館整備事業	2校
■ 高校生のための奨学金事業	2県

「ラオスのこども」とは？

はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人などが、「ラオスの子どもたちも日本のお子さんたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と、幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものです。1990年代に入り、今はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援をおこなっています。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の活動の目的は、子どもが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択する権利を全うでき

る社会、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。日本、ラオスをはじめ多様な人々の参加によって、同時代を生きる地球市民としてともに成長していくことをめざします。

これまでの取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校に焦点をあて、各校を巡回訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、学校での図書活動の活発化をすすめています。ラオスの小中高校10,538校（小学校8,887校、中学高校1,651校 ラオス教育スポーツ省2014-2015）のうち、今年度末までの累計で、295校で図書室を開設し、2,732校に図書セットを配付し、2,318校にフォローアップをしました。

出版では、少数民族の文化や生活を紹介する本など、多彩な書籍を出版しました。今年度末までに、ラオス語図書 209種類 875,255冊（図書178/紙芝居15/教科書類6/ニュースレター10）を現地で出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに、全国14ヵ所の子どもセンターの運営を支援してきました。

2015年度 第14期 事業報告 (2015年7月1日～2016年6月30日)

この1年

ラオスの状況

ラオス経済の好調は続いています。首都ヴィエンチャンではニヨキ、ニヨキと20階を超える高層ビルの工事が進み、あちらこちらでショッピングセンター建設も始まっています。こんなに作って需要があるのか、対応するインフラは整備できるのかと心配になります。

6月に理事の有志のみなさんと、これまで30数年にわたって活動してきた当会の成果を確認、評価するツアーオをおこないました。ヴィエンチャンから車で5時間程の町で、会が調整をしている奨学金を受給している高校生たち数名にインタビューする機会がありました。彼らが受給している奨学金は、年に18,000円ほど。これをもらうことで、どのような変化があった?との質問に、異口同音、これまで土木工事や農作業の手伝い仕事などで、時には学校を休まねばならないことがあったが、休まないで済むようになった、一家の生活の助けになっている、など切実な話ばかりが返ってきました。彼らの関心事は、家族はどうやって食べてくのか、出稼ぎの親が戻ってくるのか、どうしたら学校で学び続けられるかなど。聞いている我々の背筋が伸びるような内容でした。消費社会にどんどん突き進む都市部と、20年前とかわらぬ子どもたちの生活・教育環境が残る農村とでは、格差がどんどん開いています。その中で、われわれNGOとして、活動をどのように位置づけ展開するのか、模索する1年でした。

□ラオス教育データ

小学校の就学率は年々上がっており、ラオスの教育環境が徐々に改善されていることがうかがえます。一方で、小学校を卒業できない子ども達も少なくありません。県別の違いをみてもわかるように、都市部と地方の差が大きくひらいています。また、中等学校への進学率も上がっていますが、環境が整っていない現状があります。

小学校の純就学率^{*1}の推移(全国平均)

年度	純就学率		
	計	女子	男子
1995-1996		65%	72%
2000-2001	80%		
2005-2006	84%		
2010-2011	94.1%	93.3%	94.9%
2014-2015	98.5%	98.3%	98.8%

中等学校^{*2}の進学率と純就学率 2014-2015

小学校卒業者の中等学校進学率	91.7%
中等学校1-4年の純就学率	78.1%
中等学校5-7年の純就学率	45.8%

活動の課題、重点的取り組み

今年が最終年となる第6次中期計画では、1.ラオスの急激な社会変化の中でNGOの役割を再確認する2.ラオス事務所の自立を促進する、を基本方針にあげています。何回もの話しあい、取り組み、調査の結果、ラオスではまだまだ教育の機会に充分に接することができない子どもたちが多くいること、彼らのために当会が続けてきた読書普及を軸とする活動は、これからもまだ意義があることを確認しました。さらに、ラオス事務所自立のために必要なことは、なによりも活動を担う人材を育成すること、より組織的な運営体制をより強めることだということははっきりしました。

この数年、いつも問題になってきた財政状況の改善のために、4月から運営アドバイザーを委嘱し、資金調達および組織運営の全般を見直し、改善する取り組みを始めました。その結果、「ご寄付」のお願いを明確にする主旨で、夏募金を皆さんにお願いしました。

プロジェクトでは、これまでの学校を拠点とする読書推進の輪を広げ、「地域」を巻き込んだものに拡げる新しい試みは現場での反応が良く、計画より早く村の読書拠点を設置できるなど、順調に進んでいます。また、教育環境が十分でない大規模中等学校での図書館建設事業も、現場でのニーズが大変高いことが確かめられ、今後のプロジェクトの一つとして発展させることになりました。

小学1年生のドロップアウト率 2014-2015

全国平均	8.5%
最高県: アッタプー県	14.1%
最低県: ヴィエンチャン都	2.2%

残存率(入学した児童が卒業する割合) 2014-2015

全国平均	76.0%
最低県: アッタプー県	61.4%
最高県: サイニヤブリー県	92.3%

(出典) 教育スポーツ省統計情報センター
(2010年度以降は、Annual School Census)

*1 純就学率: 教育を受けるべき年齢に、実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、日本の中学、高校レベルにあたる

I 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスでは、教科書が1人に1冊は揃わない地域が多く、読み書きを習っても学校を離れると、日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きを忘れるという状況が続いてきました。また、多民族、多言語社会でありながら、学校の授業は公用語のラオス語のみということが読み書きの習得のハードルとなっていました。

当会では、ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書を配付、295校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図っています。

また、子どもと本をつなぐ役割を担うのが先生です。しかし、読書経験を持たず、本に関心がない、給与が安く、農業などとの兼業で教育へのモチベーションが高くない、といった例は少なくありません。そのため当会は、先生が本に関心を高めるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

地域に裾野を広げる学校図書室

地域住民を図書活動のサポーターとして巻き込み、学校の図書活動の担い手の裾野を地域に広げる事業で、ルアンナムター県・ヴィエンチャン県の6郡において16ヵ所を対象に実施しています。

昨年度開設した16ヵ所の学校図書室と地域文庫(村図書館)のフォローアップを実施しました。また、態勢が整った6つの村において、地域文庫を開設しました。昨年度開設分と合わせ、対象16地域のうち9地域に、地域で図書を利用できる図書室を設置できました。

プロジェクト対象地を、2郡ずつ各3日間の日程で図書室の担当者を中心としたワークショップ形式の中間



評価を実施しました。課題解決のために、経験を共有し合い、活発に活動している図書室、図書室担当者、図書ボランティアを表彰することで、モチベーションをあげることに繋がりました。(学校図書室の地域への展開事業／JICA国際協力機構草の根技術協力事業)

5県14小中学校にあらたに図書室をオープン

空き教室を利用した学校図書室開設を、今期は5県の小学校11校と中等学校3校でおこない、同時に教員向けの研修を実施しました。また、過去3年以内に開設した学校図書室34校に図書を補充しました。14ヵ所のうち8ヵ所は、現地での資金調達により、図書室整備を依頼されたものです。

当会の図書室整備事業が広まり、ラオスで活動するNGOや個人から、活動地の学校で図書室を開設して欲しいという依頼が多く寄せられるようになっていました。また、図書室活動の活性化のために取り組んでいる「使用済み図書貸出カードと図書の交換」についても、徐々に定着してきました。

大規模な中等学校で図書館を建設

近年急速に生徒数が増加している中等学校(中学高校にあたる)は全般的に環境整備が追いついていません。ヴィエンチャン都内の大規模な中等学校2ヵ所で、80m²、83席の図書館を建設するとともに、約1700冊の図書を整備しました。また、各校75名の教員・生徒に読書推進研修を実施しました。さらに研修を受講した教員生徒が、全校生徒を対象に図書室の利用の仕方の基本を研修するといった新しい取り組みをおこないました。完成した図書館は、連日多くの生徒が利用しております、図書を使って調べ物をするなど、学ぶ意欲が増している様子がうかがえます。

また、研修の成果として、教員が図書を活用した授業をおこなうようになり、授業の質が向上し、生徒の授業への理解度が増したという結果が得られました。
(中等学校の図書館整備事業／外務省 日本NGO連携無償資金協力事業)



事務所併設 子ども図書館の活動状況

事務所併設 子ども図書館は月曜から土曜まで開館し、近隣の中学校2校、小学校4校の子ども達を中心に、1日平均33人が来館しました。スタッフの地方出張が重なる時期は、時間的な余裕がなく、十分な活動が出来なかったことから、利用人数及び図書貸し出し人数が減少しています。

日本からのボランティア・インターの活動では、恒例の夏に開催されるリコーダー＆ダンス教室をはじめ、工作教室などを積極的に実施しました。継続した活動は、子ども達に定着し、恒例行事として楽しみにしています。

II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店がほとんど見当たらず、本を目にしません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれた作品が不可欠であることから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家が殆どいない中、日本人、タイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘、育成し、これまで209点 875, 255部の書籍や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会化が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。子ども向けの書籍は、これまで援助機関による無償配布が多いことから、質への関心が充分で無く、課題があります。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような質の高い本作りを目指しています。

多様な図書、1万800部を出版

今期は、図書4作品、計10,800部を出版しました。このうち3作品は、昨年度実施した「ラオスの各民族の若者のための出版研修」による作品です。



クム族の民話集

3,000部 初版 作)スックサワン シーマーナ 絵)アーリーナー アーバイワン 他4名
クム(カム)族に伝わる10話をまとめた民話集。「おばけ娘」「カメくん」「鹿とフクロウ」など、動物と人間の知恵比べ、貧しい孤児が金持ちを負かす話や、土地の由来といったユーモラスで不思議な世界が描かれている。
《ご支援:株式会社すかいらーく、絵本出版指定募金》



モン族、ブライ族、カトゥ族の歴史と暮らし

2,300部 初版 作)リーコー ワン 他3名
ルアンナムター県のモン族、サイニヤブリー県のブライ族、セコン県のカトゥ族のそれぞれの風習、生活様式をまとめたもの。伝統儀式、伝統的な家の作りなどが、詳しく紹介されている。
《ご支援:絵本出版指定募金、クラウドファンド支援者》



私の村の祭り

2,500部 初版 作)ラタナボーン ケオマニタン 他11名
各地でおこなわれている祭りを紹介。タリエン族、タイダム族、モン族、クム族といった民族特有のものから、サムヌア地方、シェンクワン地方など地域に根ざしたものまで、13に渡る祭りを地域色豊かに紹介している。
《ご支援:一般財団法人ゆうちょ財団、クラウドファンド支援者》



私の村の料理

3,000部 初版 作)カムパケオ インタヴォン 他3名
ラオス各地に伝わる郷土料理、北から南まで22種類を集め、その作り方を写真とともに紹介している。身近な筍を使った料理だけでも5種類。ラオスのお袋の味「ケーン(スープ)」も地方によっていろいろあることがわかる。
《ご支援:一般財団法人ゆうちょ財団、クラウドファンド支援者》

折り紙ワークショップの実施

2014年に出版し、とても反響の高かった『折り紙ハンドブック』を活用し、小学校や子どもセンターの職員を対象に、折り紙を通して子ども達と一緒に創作活動ができるようになることを目的としたワークショップをおこないました。折り方の基礎から授業での活用まで学べる内容とし、講師は当会スタッフのチャンシーが務め、8月に3日間の日程で2回実施し、31名が参加しました。「創作活動をやりたいがこれまで何をやつたらよいかわからなかった。もっといろいろ教えて欲しい」と積極的な参加者が多く見られました。

《ご支援:キヤノン株式会社》

出版研修の実施

12月、2日間にわたり、当会ラオス事務所で出版についての研修をおこない、出版社の編集者、当会スタッフなど10人が参加しました。講師は、日本の出版社での経験が長い理事が務め、「子どもは何を読みたいか、それをどう見つけるか」「本の顔、読み手の好み」「どんな本を読ませたいか」「著作権」などについて取り上げました。

《ご支援:一般財団法人ゆうちょ財団 NGO海外援助助成事業》

III 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育のカリキュラムはありますが、充分な指導ができる先生がいない、用具がないなど、子どもたちの情操面を伸ばしたり、チームでの活動をする機会があまりありません。

1994年に、当会などの協力によって音楽、舞踊、図工などの表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、全都県に設置されましたが、近年は、講師の雇用、教材費、行事開催などの資金確保が難しく、魅力的なプログラムが組めず、不活発なセンターも見られるようになってきました。当会においても、日本での助成金などでは、緊急性が低いと判断されるなど理解を得ることが難しく、ポイントを絞った支援になっています。

今期は特定の支援はおこなわず、活動状況や課題の把握に努めました。中央子どもセンター局主催で1月におこなわれた「子ども文化センター全国大会」にはスタッフ1名が参加しました。

6月に実施した中期計画のための理事による事業視察ツアーでは、2カ所のセンターを訪問し、館長にインタビューをおこない、活動状況をききました。子どもの

環境の変化および、スタッフの世代交代などにより、子どもセンター活動が全国的に停滞している感じがあります。センターにより違いはあるが、強いリーダーシップが不足するセンターでは、スタッフの意欲、技術が低下している様子です。現場からは、スタッフ研修に強い要請がありました。活性化の方策について、次期に検討します。

IV もっと学ぶことが出来るように（その他受託事業）

高校生対象のための奨学金事業

タイのThe Siam Cement Public Co.Ltd.から受託されている事業で、今期で4年目になります。ヴィエンチャン都全域及びカムワン県4郡の高校生（中等学校5年生～7年生）が対象で、経済的に厳しい家庭状況で、学習意欲の高い生徒に、1年間の奨学金を支給するプロジェクトです。実施にあたっては教育局と協力し、対象地域全校に願書を配布。書類選考の後、審査員が直接学校や家を訪問し面接をおこないました。ヴィエンチャン都150人、カムワン県80名、計230名の奨学生を決定し、1年間の奨学金を提供しました。

受給を受けた生徒達は、奨学金を得たことにより、家計を助けるために仕事に行かなければならぬ日が減り、学校を休まなくてすむようになった、学用品の購入や補習講座への参加費を捻出できるようになったという声があがっています。

本事業の選考方法は、書類審査と家庭訪問による面接を経て、委員会によって選考され、公平であると評価されています。家庭訪問はスタッフにとり、高校生の実際の生活に接し、問題・困難を実感できる貴重な機会もあります。



ブックフェスティバルの開催

地方でのブックフェスティバルを4地域、各2日間の日程で実施しました。このように地方で連続的に開催するのは初めてのことです。

生徒たちによる読み聞かせや紙芝居、詩の詠唱、絵本を題材にした劇などの発表をメインに、出張図書室や折り紙などのアクティビティを実施しました。読み聞かせや紙芝居の披露では、生徒が緊張しながら練習の成果を披露する姿が見られ、詩の詠唱や劇の発表では観客が大いに盛り上りました。



地域の小学校・中等学校から子ども達や先生が多数参加し、学校・コミュニティにも読書推進をアピールする機会となりました。また、ブックフェスティバルの実施により、各校・各地域の図書活動実施のモチベーションが高まりました。



《ご支援:Lao Cultural Challenge Fund》

日本での活動

当会は、日本では東京に事務所を設け、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校に、開発教育の授業を出前

当会スタッフが学校に出向き、国際理解教育(開発教育)の参加型授業を実施しています。今期は中学1校、高校1校、計2校で、合計46名を対象に、ラオスの紹介や日本の絵本にラオス語訳を貼る「ラオス語絵本」プロジェクトを実施しました。

その他、大学や企業と、国際理解を深めるイベントを通して、連携を強めました。



参加型プログラム

●ラオス語絵本プロジェクト

ラオスの子ども達に多様な絵本を提供するために、日本語の絵本にラオス語訳を貼り付けてラオスへ送るプロジェクトを実施しています。今期は、プロジェクトへの申し込みが17件、合計392冊(昨年比20%減)をラオスへ届けることができました。

また、担当インター1名を配置し、その他ボランティアの協力を得ながら、翻訳シートの改訂、データ化をすすめることができました。

今期はイベントにて、ラオス語絵本づくり体験を積極的におこない、活動への参加を促す働きかけをおこないました。



●書き損じハガキの収集

書き損じハガキを集め、プロジェクト運営資金に活

用しています。書き損じハガキ3枚が、ラオスの絵本1冊分に相当します。今期は、64件、209,985円相当のご寄付をいただきました。

活動ミーティング・活動報告会

会員、ボランティアが集まる活動ミーティングは、スタッフの出張報告や学生ボランティアの活動報告、イベント企画や振り返りなど、計4回開催。また、駐在員による活動報告は2回開催しました。参加者は延べ91名が参加しました。

イベント開催

●ラオスの織物展示販売

ラオスの様々な民族の織物、刺繡を使った小物や洋服の展示販売を、各地のギャラリーなどの協力を得て開催しています。今期は3回の織物展を実施し、主催以外に開催協力が2回あり、昨年に引き続き、委託販売も積極的に実施しました。



●ラオスの正月「ピーマイパーティ」

ラオスは4月にお正月がやってきます。当会では毎年、東京・大田区内の施設で、活動を紹介するとともに、ラオス料理を味わい、留学生による民族舞踊を楽しんでいただくパーティを開催し、好評を得ています。今期は140人が共に新年を祝いました。



組織の運営

1. 全体運営

■理事会

理事 ・後藤 さち子・猿田 由貴江・塩谷 光
・新藤 雅章・田島 伸二・チャンタソン インタヴォン
・野口 朝夫・広瀬 未奈・森 透

監事 ・矢崎 芽生・脇田 康司

以上、理事9名、監事2名により運営が担われ、年4回理事会を開催しました。参加はのべ26名で、毎回、財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告、討議の他などが話し合わせました。

6月6～11日にラオス事業視察ツアー実施し、理事4名、監事2名、アドバイザー1名、ボランティアスタッフ1名が参加しました。

■運営

対外的な発信がより明確になるよう、会の組織理念、活動原則の文書整備をおこないました。さらに活動に賛同し寄付をくださる方々が増えるためには、いかにして会をアピールするか再検討をおこないました。これまで十分におこなってこなかった「募金」活動を、夏募金という形でおこない、寄付を増やす結果となりました。その一方、会員数の増加はできませんでした。

6次中期計画の振り返り、7次中期計画の基本戦略の作成、資金調達の再検討などが進められました。ラオス事務所において、会の歴史や理念を若手スタッフに伝える機会を設け、NGOの活動の意味を伝えました。ボランティア、インターンの方々による支援は、継続的、専門的におこなわれ、運営成果にむすびついています。

会員数(期末時)は、活動会員68名、サポーター130名で、昨年度より減少しました。

■資金調達

ニュースレターに同封するチラシを改善するなど、寄付への呼びかけを重ねました。資金調達方法と考え方を見直し、新たな試みとして6月に夏募金2016を実施しました。呼びかけ先を広げるなどの工夫により、成果が出ています。

ラオス事務所では、会の専門分野である読書推進活動での受託事業が増加しました。また本の販売委託先を増やす、イベント協力を募るなど、資金調達先の多様化と増額に取り組み、成果が上がっています。

■広報

ホームページ記事、スタッフブログ、Facebookなどにより発進は隨時おこなっています。広報の効率化を図るために、通信やチラシ類を含め広報全体の見直しをすすめました。ホームページのリニューアルの準備がすすんでいます。

通信は、年3回計4500部、年次報告書は1500部 発行しました。

2. 東京事務所

■体制

以下のメンバーにより運営されました。

常勤非専従事務局長 1名

常勤専従スタッフ 2～3名

常勤スタッフが減少したなか、会計ボランティアスタッフ2名の継続した協力により、今期も大いに事務局が支えられました。また今期活動したインターンは合計8名。興味がある分野や強みを活かし業務を担当し、総合的に事務局の業務体制強化に繋がりました。

■総会

9月19日、2015年度通常総会を開催し、活動会員40名(書面表決、委任状を含む)が参加し、第13期事業報告、会計報告、理事の承認、監事の選任、定款変更が承認されました。

3. ラオス事務所

■体制

常勤スタッフ7～8名により運営されました。

事務所所長 1名

常勤専従スタッフ 5～6名

日本人駐在員 1名

アドバイザー 1名

日本人駐在員が交代となり、新駐在員が着任するまでの3ヶ月間は、東京からスタッフが交代で出張することと、事業調整をおこないました。

事務所の運営管理については、今期初めに各種規程案のラオス語版が作成されましたが、スタッフとの調整が遅れ、本格的な導入に至っていません。プロジェクト実施に追われ、スタッフ間での情報共有のための会議が定期的には開催出来ませんでした。

■資金調達

タイ企業の支援による奨学金事業や、国際NGOからの図書室整備委託事業、スイス政府によるラオス文化チャレンジ基金などは、これまでの実績から、前期よりも増額された規模での契約ができました。

図書の委託販売は、手順の整理などの改善は必要ですが、徐々に委託先が増え、順調に売上を伸ばしています。

■ボランティア・インターン・訪問受入

ラオス大学の学生のALC図書館でのボランティアも定期的ではないが継続的に実施されています。日本人大学生のボランティア・インターンは3回、計9名の受入れをおこない、併設図書館などで活動しました。また、事務所や併設図書館への日本人来訪者が増加しています。

2015年度 第14期 会計報告 (2015年7月1日～2016年6月30日)

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	707, 000
2.受取寄付金	4, 962, 221
3.受取助成金等	42, 602, 243
4.事業収益	4, 320, 735
5.その他収益	22, 341
経常収益計	52, 614, 540
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	11, 773, 906
(2)その他経費	34, 691, 199
事業費計	46, 465, 105
2.管理費	
(1)人件費	2, 238, 768
(2)その他経費	2, 792, 380
管理費計	5, 031, 148
経常費用計	51, 496, 253
税引前当期正味財産増減額	1, 118, 287
法人税等	70, 000
当期正味財産増減額	1, 048, 287
前期繰越正味財産額	5, 449, 858
次期繰越正味財産額	6, 498, 145

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	9, 164, 909
資産合計	9, 164, 909
II 負債の部	
1.流動負債	2, 666, 764
負債合計	2, 666, 764
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	5, 449, 858
当期正味財産増減額	1, 048, 287
正味財産合計	6, 498, 145
負債及び正味財産合計	9, 164, 909

【矢崎監事からのコメント抜粋】

全体の損益状態について、今期は2期ぶりに黒字で終了しました。現地での収入も増加しており、ラオス事務所の自立を目指す方向性と合致しており、よい傾向だと思います。損益状態がよくなつたことで、正味財産の額は在庫の金額を考慮しても、債務超過状態は免れましたが、油断できる状況ではありません。引き続き損益状況、財務体制の健全化を目指していってください。

ここ数年、ラオスでの資金調達が増えましたが、一方で、会計管理における体制に弱さがあるとも聞いておりました。現在の状況をヒアリングしたところ、昨年以来、会計に専任ではありませんが、関わるスタッフも出来つつあるということで、改善の方向にはあるのではないかと思います。引き続き、体制構築を行ってください。

事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	4, 145, 594	2, 964, 320
図書室地域展開事業	13, 591, 132	11, 308, 417
図書館建設事業	12, 451, 856	12, 132, 565
学校図書室整備事業	3, 072, 017	4, 531, 035
子どもセンター事業	32, 741	74, 071
奨学金事業	9, 875, 337	8, 147, 208
特別実施事業	3, 135, 585	2, 521, 633
交流事業	798, 266	356, 150
収益事業	3, 573, 199	2, 863, 316
図書商品棚卸	0	1, 566, 390
事業部門計	50, 675, 727	46, 465, 105
東京管理費	1, 567, 627	3, 504, 471
ラオス管理費	371, 186	1, 526, 677
管理部門計	1, 938, 813	5, 031, 148
合 計	52, 614, 540	51, 496, 253

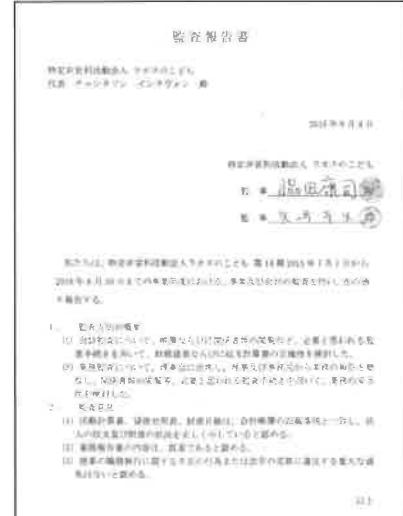
各種経費の削減、資金調達の努力などにより、懸案である財務体質の改善を進めた結果、経常収益が増加し、2期ぶりに正味財産増減額が黒字になりました。

ラオス事務所では、読書推進活動での受託事業が増加しています。また、資金調達先の多様化と増額に取り組み、成果をあげています。

東京事務所では、4月から運営アドバイザーを迎えて、資金調達力向上を図る活動が始まりました。これまで以上に、「募金」にちからを入れ、新たな寄付者を拡大するための取り組みをおこなうことになりました。

【脇田監事からのコメント抜粋】

6次中期計画の最終年度ということで、計画がどのように達成されてきたかがわかる年でした。7次中期計画においては、ラオスと日本双方の活動目標をどこにおくか、年度ごとの達成目標をどこにおくかを丁寧に策定している様子をうかがえました。総合的にみて、適切な運営がなされているというのが監事としての意見です。



2016年度 第15期 事業計画・予算 (2016年7月1日～2017年6月30日)

□背景と方向性

前年度におこなった第6次中期計画の活動評価において、子どもたちを取り巻く教育環境は、都市部で少しは改善されてきているものの、農村部では相変わらず子どもたちが読書に親しむことが難しい状況が続き、格差が拡大していることが確認されました。当会が続ける子どもたちに「読書の楽しみを伝える」活動は、都市部を含め、今なお意味を持ち、その活動を担う人材育成も必要とされていることを確信しました。今年度から始まる第7次中期計画では、これまで取り組んできた「読書推進活動」「出版プロジェクト」「子どもセンタープロジェクト」を継続して推進するとともに、ラオス事務所の能力強化と、東京事務所での資金調達力の強化を重点項目としました。今年度は、この中期計画に従い、年次計画を進めます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は昨年度に引き続き以下の11名です。

理事	・後藤 さち子	・猿田 由貴江	・塩谷 光
	・新藤 雅章	・田島 伸二	・チャンタソン インタヴォン
	・野口 朝夫	・広瀬 未奈	・森 透
監事	・矢崎 芽生	・脇田 康司	

ラオスでのプロジェクト

I. 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

●学校図書室の地域への展開事業

4年間にわたる事業の3年目として、2県6郡の16ヵ所において、引き続き事業を実施します。これまでに開設した学校図書室及び地域文庫の運営管理が十分におこなわれ、子どもたちに図書サービスが定期的に提供されるよう指導をおこないます。また、未設置の地域で、順次地域文庫を開設するとともに、図書館活動をより活性化し、興味を喚起し、読書推進活動が定着するようはたらきかけます。

●学校図書室の整備

引き続き、小中学校の空き教室を利用して、本棚や本を提供し、教員研修をおこないます。日本からの支援により6ヵ所で新規開設を予定しています。地域全体で読書推進活動を盛り上げ、学校図書室の活動を定着させる為の取り組みをおこなうとともに、各学校の図書活動のフォローアップを実施します。

●中等学校の図書館整備事業

進学者が急激に増えている中等学校における図書館整備事業を継続して実施する計画です。前年度の図書館整備事業の経験を生かし、今期は、今後の展開のために調査活動をおこないます。

●ラオス事務所併設図書館の活動

子どもにとって魅力的な活動、主体的に参加できるアクティビティを引き続きおこないます。スタッフによる読書に関連したゲームや工作など各種プログラムを充実させ、読書だけでなく表現する場、知る喜びを体験出来る機会を作り、満足度を高めます。

II. 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスの子ども達にとって、どのような本の提供が意味があるのかを常に問い合わせつつ、質が高い多様

な本を計画的に出版します。7タイトルの出版をおこなう計画で、評価が高い図書の再版や、海外作品の翻訳出版を検討します。ニーズ調査の結果を出版計画に反映させ、出版の企画会議を実施します。その他、昨年度好評であった「折り紙ワークショップ」の第2弾を実施します。更に、当会が出版してきた図書に関する評価活動を専門家を交えおこないます。

III. 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

当会スタッフが2～3ヵ所のセンターを訪問し、活動状況や課題の把握に努めます。また、ヴィエンチャン子ども教育開発センターで、1～2講座の運営費をサポートし、運営立て直しのモデルケースとなるよう試行します。

IV. 奨学金事業（受託事業）

高校生対象の奨学金事業を継続して、受託することが決定。奨学金受給者は、ヴィエンチャン都150名、カムアン県100名の合計250名に拡大して実施する予定です。

日本での活動

引き続き、「開発教育・国際理解」「ラオス語絵本プロジェクト」「書き損じハガキ収集」の活動をおこない、ラオスの子どもたちの状況や会の活動への理解を深めます。また定例の活動ミーティングでは、活動を支える人々、関心を持つ人々とのネットワークを強めていきます。さらに、物品販売など、自己資金獲得の為の活動を積極的におこないます。

組織の運営

NGOとして安定した活動が継続するように、事業運営能力をより強化します。

活動に関心を持つ人々へ、当会の活動理念を分かりやすく正確に伝えるため、組織理念、基本原則などの文書の再整備をすすめます。

また、これまでの活動支援要請に加え、寄付者を増やすために、ファンドレイジングの手法を導入し、資金調達力を向上させます。

計画的な研修などにより、スタッフの能力強化を図り、組織の運営能力の向上を図ります。

東京事務所とラオス事務所との日常的なコミュニケーションを深め、情報の共有化を進めます。

2016年度 第15期 予算

(2016年7月1日～2017年6月30日)

東京事務所は、既存の支援者からの寄付金及び事業補助金等を維持しつつ、「ファンドレイジング」に基づいた新たな寄付者の獲得に取り組みます。ラオス事務所は図書販売、受託事業の獲得などによる資金調達をすすめます。

科 目	金 額
I 収入の部	
1.受取会費	910,000
2.受取寄付金	7,300,000
3.受取助成金等	24,500,000
4.事業収益	4,700,000
5.その他収益	100,000
収入合計	37,510,000
II 支出の部	
図書室地域展開事業	10,910,000
学校図書室整備事業	3,830,000
図書館建設事業	120,000
出版事業	3,200,000
子どもセンター事業	190,000
奨学金事業	9,000,000
特別実施事業	50,000
交流事業・収益事業	3,270,000
東京管理費	3,960,000
ラオス管理費	1,610,000
支出合計	36,140,000
前期繰越金	1,567,221
次期繰越金	2,937,221

繰越金には前受助成金を含みます

第7次中期計画 重点項目 2016年7月～2019年6月

I プロジェクト運営 戰略的目標

1 読書推進	図書活動の拠点が地域へ広がり、図書利用の機会が増す 既存支援学校図書室が再活性化する 新規図書室の設置 各図書室に担当者が設置され、図書室のサービスが定期的に提供される状態になる 読書環境が十分でない大規模中等学校で図書館に図書館を設置 土曜開館を維持し、スタッフによる日常的な子どもたちに対する働きかけを継続する
2 出版	3年間で質の高い、25タイトルを出版する 多様な本を計画的に出版出来る体制となる
3 子どもセンター	計画通り定期的、継続的にオープンしている 職員が日常的にセンターに居る
4 その他	奨学金事業は、継続して事業を受託

II 組織運営 戰略的目標

1 事業運営	ラオス事務所 「読書推進」「出版」「子どもセンター」の主要三事業の成果の継続を優先した事業運営	東京事務所 成果の継続性と発展を重視した事業運営のため、読書環境を充実する取り組みの専門性を高めることで、活動の質をより高める 会員及び支援者の継続率が向上する
2 進捗管理能力	主要三事業の評価指標が整備、事業がモニターされ、評価が実施される	事業の評価指標が整備、事業がモニターされ、評価が実施される
3 組織運営	業務分掌規程と職務推進マニュアルが整備される	業務分掌規程と職務推進マニュアルが整備され、役割分担が明確となり、効率的な働きとなる
4 資金調達力	販売委託先を50ヶ所に増やし、販売冊数を増やす 奨学金の受託事業を継続 他の資金調達の可能性を調査	これまでの寄付金及び事業補助金を維持しつつ、「ファンドレイジング」に基づいた新たな寄付者を獲得する 定期的な特別募金(夏＆冬)の完全実施 マンスリーサポーター制度の開始
5 人材育成	人材育成計画が作成され、実施される 活動のスタッフ間での共有化を促進する	人材育成計画が作成され、実施される



特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたちの
成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動を続けて
いる国際協力NGOです。おもに、「図書・紙芝居の出版」
「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図書室運営・図
書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子どもが集い遊び
学べる「子どもセンター」の運営支援などを行い、子どもが
自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが
ら、読書に親しむ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail alctk@deknoylao.net
<http://deknoylao.net>